

阪神・淡路大震災 救援活動報告書



平成7年10月

社会福祉法人 恩賜 財団 済 生 会

はじめに

平成七年一月十七日早朝、発生した阪神・淡路大震災は、その被災状況が極めて大きなことから法人全体で組織的な援助活動を行う必要があると判断し、また厚生省からの要請もあり、一月十九日、済生丸を神戸港に派遣するとともに、二十一日、中津医療センター内に対策本部を設け、全国各支部、施設の協力の下、積極的に援助活動に取り組んだ。

その際、総裁高松宮妃殿下から済生会の趣旨に則った取り組みを期待する旨のお言葉と、多額の資金を賜ったことは救護活動に従事する職員に多大の感銘を与え、全国の済生会役職員の救護活動に対する姿勢も一段と高まりを見せた。本会の活動は、東灘区、長田区に拠点をおいた派遣診療活動を中心とするものであったが、このほかに第二次救急病院として被災者の積極的受け入れ、被災者に対する生活必需品の援助、本会役職員による義捐金のとりまとめなども行った。

その後被災地の医療機関も次第に復興を見せたこと等から、二月二十八日もって終了した。

今回の援助活動は、本会にとって前例のない活動であり、対応の遅れ等、反省すべき点も少なくなかった。しかしながら、自ら被災を受けた施設も率先して援助活動に参加するなど、組織を挙げて継続的な活動を展開し、相当な実績を残すことが出来たことは、意義深いものであった。

今回の活動は、本会の今後の展開に必ず役立つ経験となるものであり、ここにその経過を記録としてまとめることとした。

済生会阪神大震災現地対策本部

本部長 翁 久次郎

阪神大震災に際してよせられた 総裁高松宮妃殿下のおことは

このたびの兵庫県南部地震に際し、皆様の
ご安否を心から気遣っております。

ことに、この地方にお住まいの方々や、ご
親類、ご友人の方々のご無事をお祈りしてお
ります。

また、このたびの災害を受けられた方々に
対しては、済生会の皆様が本会の趣旨に則り、
できる限りの救護・救援活動に当たっていた
だきますようお願いいたします。

平成七年一月二十三日

総裁 宣仁親王妃喜久子



病室がつぶれた神戸市立西市民病院でけが人を救出 (1.17)



神戸市須磨区 (1.17) (毎日新聞社提供)



神戸市立西市民病院からも入院患者を受け入れた兵庫県病院



被災した老人28人を受け入れた「ふじの里」

阪神大震災の規模

発生日時: 1995年1月17日午前5時46分
震源地: 兵庫県淡路島北端(深度20km)
規模: マグニチュード7.2
[神戸市など震度7(激震)
京都市など震度5(強震)]

主な被害

死者: 5502人 (警察庁調べ)

行方不明: 2人 (同)

負傷者: 36929人
(兵庫、大阪、京都の2府1県)

避難所の被災者: 最高31万4169人 (兵庫県)

焼損面積: 神戸市 64万2215平方メートル
: 西宮市 7784平方メートル
: 芦屋市 3562平方メートル
: 尼崎市 2572平方メートル

倒壊住居: 20万8150棟
(全・半壊、2府1県)



幹事会で救援対策を協議（現地対策本部 1.26）



離島診療の予定を急きょ変更、岡山済生会総合病院の診療班を乗せて神戸新港「第三突堤」に接岸した済生丸（1.19）



巡回診療をする八幡総合病院の馬場美恵子看護婦（手前）と本治也医師（真野小付近の体育館で 2.15）

（共同通信社提供）



済生丸から救援物資の荷揚げ（1.19）



灘高校の正門

目次

はじめに

濟生会 阪神大震災現地対策本部 本部長 翁 久次郎

總裁おことば

高松宮宣仁親王妃喜久子殿下

協力要請

厚生省 神戸市地震対策本部本部長 11

謝意

神戸市衛生局長 神戸市東灘保健所所長 神戸市長田保健所所長 真野地区災害
対策本部長 神戸市東灘保健所所長 神戸市災害対策本部長 神戸市衛生局長

阪神大震災の救援活動について

一 救援活動の概要について 濟生会阪神大震災現地対策本部 23

二 濟生会対策本部の概況 濟生会阪神大震災現地対策本部 副本部長(御所病院院長) 菊田 捷二 25

三 東灘班の活動について 濟生会阪神大震災現地対策本部 代表幹事(中津病院院長) 辻野 博之 28

四 濟生丸(長田区)の活動について—濟生丸を拠点にした救援診療がどのようにして始まったか— 濟生会阪神大震災現地対策本部代表幹事(香川県濟生会病院院長) 美馬 恭一 31

五 濟生丸派遣のいきさつ 瀬戸内海巡回診療船連絡事務所 連絡委員長 岩本 一寿 34

六 濟生丸による救援活動について 濟生丸船長 高木 勇 37

診療班報告

濟生丸班(一月十九日～二月二十八日)

第一班(一月十九日～二十一日) 岡本 康久/秋山 敏夫 43

第二班(一月二十二日～二十四日) 市原 悦子 48

第三班(一月二十五日～二十八日) 池田 憲一/黒田 宗明 50

第四班(一月二十九日～二月一日) 花房 操 53

第五班(二月一日～四日) 矢野 栄二 54

第六班(二月四日～七日) 酒井 律江/百名 英二 56

第七班 (二月七日～十日)		名越 良雄／湧田 幸雄	59
第八班 (二月十日～十三日)		佐藤 誠／石川 裕章	61
第九班 (二月十三日～十六日)		安梅 努／安藤慎太郎	63
第十班 (二月十六日～十九日)		難波 知／野村 裕常	65
第十一班 (二月十九日～二十二日)		四木 和之／片山 隆司	69
第十二班 (二月二十二日～二十五日)		福見 俊雄	71
第十三班 (二月二十五日～二十八日)		千田 茂樹	72
東灘班 (二月二十四日～二月二十四日)			
野江班 (二月二十四日～二十五日)		小西 弘起	75
泉尾班 (二月二十四日～二十五日)		高橋 克明	76
中津班 (二月二十六日～二十八日)		芥川 茂／都築 大祐／山尾 一磨	77
富田林班 (二月二十八日～一月三十日)		横田 愛子	80
吹田班 (二月三十日～二月一日)		板橋 司	81
茨木班 (二月一日～三日)		布出 泰紀	83
奈良班 (二月三日～五日)		日高 聡	85
滋賀班 (二月五日～二月七日)		日置 康志	86
御所班 (二月七日～九日)		徳田 初夫	88
和歌山班 (二月九日～十日)		竹田 正	89
有田班 (二月十日～十一日)		奥 正巳	90
松阪班 (二月十一日～十三日)		森田 孝一	92
中和班 (二月十三日～十五日)		今川 敦史	93
静岡班 (二月十五日～十七日)		吉井 仁	95
福井班 (二月十七日～十九日)		青竹 康雄	96
新潟第二班 (二月十九日～二十一日)		伊藤 孝憲	98
宇都宮班 (二月二十一日～二十三日)		亀山 良弘	99
中津班 (二月二十三日～二十四日)		小林 克也	100

診療班派遣施設報告

中津病院

泉 章 105

被災者受け入れ施設報告

一 兵庫県病院

柴田 洋子 109

二 ふじの里

橘 治行 114

三 中津病院

小島 優／照井八重子 116

四 茨木病院

夏見 俊彦 121

五 中和病院

松山 肇 123

本部事務局の対応について

本部事務局の対応について

本部総務部総務課長 久木田四朗 127

広報室からの報告

本部広報室長 田鎖 光一 129

派遣活動参加者の体験感想

・宇都宮病院

植松繁人 柴田浩子 亀山良弘 133

・新潟第二病院

船崎俊一 佐藤 勇 榊村千恵子 北村純夫 134

・福井県済生会病院

橘 良哉 谷田清美 梶山浩之 138

・静岡済生会総合病院

李 政秀 田村万寿美 杉原孝幸 140

・松阪総合病院

藤岡博道 中村昭宣 松井美貴 143

・滋賀県病院

加藤一晴 東田 武 松尾素也 沖田文子 溝口寿代 日置康志 146

・中津病院

土屋順子 江口美也子 栗井幸雄 鈴木辰美 152

・吹田病院

原 章倫 辻野美代子 156

・泉尾病院

高折 洋 萩智恵子 渡辺茂美 上野達也 158

・富田林病院

坂本嗣郎 高谷直知 山口和美 南 一弘 162

・茨木病院

布出泰紀 土居富美子 土本弘之 166

・奈良病院

藤井祐美子 169

・中和病院

今川敦史 恒川山人 米田岳史 吉村秀一 山下晃司 志田裕子 藤原美津子 170

・御所病院

上田俊明 津森 栄 177

終わりに
参考資料

・和歌山病院	坂東憲生	大浦晴夫	澤本成史	河端久美子	179
・有田病院	川口伸也	新界紀子	中谷和史		182
・境港総合病院	前田啓之	加藤達生	永井節子	徳永嘉子	184
・江津総合病院			笹尾孝美		187
・岡山済生会総合病院	江原優子	広瀬周平	井上英雄	中尾豊美	188
・呉病院	伊藤公訓	中島美佐緒	山田勝土	上本由紀子	194
・広島病院	野宗義博	高砂利行	逢坂由紀子	黒田美也	197
・山口総合病院	安藤慎太郎	山村尚美	杉 文子	岡田智子	203
・下関総合病院			秋本憲志	片山隆司	210
・香川県済生会病院	花園繁美	岡田久子	戸嶋涼子	西村容子	210
・松山病院			真鍋正博		213
・今治病院	藤本清一	八木政義	徳永かちる	阿部喜代子	215
・西条病院			高橋早苗	松田佳美	216
・福岡総合病院			日高 績	真鍋 亨	223
・八幡総合病院			山中俊作	丸尾史恵	225
・大牟田病院			大黒能布江	有川直美	226
・唐津病院			城 由起彦		227
・熊本病院			本多信茂	三澤幸枝	229
・本 部			小松公子		230
			米村奈穂子		231
			三村隆雄	荒川 隆	237
			済生会現地対策本部事務局長(本部理事) 目黒 克己		239

●活動に際し、国、神戸市等より本会に対して
次のような要請があり、援助活動終了後
感謝を示す文書を受けた。

社 援 企 第 5 号

平成 7 年 1 月 19 日

社会福祉法人 恩賜財団済生会

理事長 翁 久 次 郎 殿

厚生省社会・援護局長

佐 野 利 昭

兵庫県南部地震における災害救援活動について（依頼）

今般の兵庫県南部地震による被災に関し、医療面等における災害救助活動の充実が要請されているところでありますので、貴会において格段の御配慮をいただきますよう、御依頼申し上げます。

なお、具体的な活動内容については、被災地の地方自治体及び当職との連絡を一層密にしながら、機動的な対応をお願いしたいと存じますので、併せて申し添えます。

神 衛 庶 第 431 号

平成 7 年 1 月 25 日

社会福祉法人恩賜財団済生会

理事長 翁 久次郎 殿

神戸市地震対策本部

本部長 笹 山 幸 俊

巡回診療船済生丸での診療の継続について（要請）

この度の兵庫県南部地震における被災者に対する診療等にあたりましては、管下の病院等における率先垂範した医療活動など種々ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

また、へき地診療に従事されていた巡回診療船済生丸を直ちに派遣して頂いただけでなく困窮していましたミルク等の搬送までご配慮を賜りお礼の言葉ありません。

神戸市民に成り代わりまして厚くお礼申しあげます。

さて本部の現状でございますが、既に各種の情報でご存じのとおり当市内の医療機関が相当被害を受けていることから、被災者に対する医療の確保につきましては、引き続き対策本部の最大の課題のひとつとなっております。また、避難が長引いていることからインフルエンザの蔓延など新たな課題にも対応しなければなりません。

つきましては、離島におけるへき地巡回診療の事情は、理解しているつもりでございますが、事情ご賢察頂き巡回診療船済生丸での診療を継続できるよう格別のお取り計らいを要請いたします。

神 衛 健 第 911 号

平成 7 年 2 月 27 日

社会福祉法人^{恩賜}財団 済生会

理事長 翁 久次郎 殿

神戸市衛生局長 宮 本 包 厚

兵庫県南部地震にかかる被災者の診療活動について（通 知）

この度の兵庫県南部地震の被災者に対する貴会の下記の診療活動については、ご尽力を頂き、誠にありがとうございました。

被災地区の診療体制等は徐々に修復・整備されつつあり、3月以降は当局を中心として医療の確保に万全を期す予定であり、管下保健所等とも協議・調整を進めております。

ここに改めて貴会のご尽力に対し厚く感謝します。

記

1. 瀬戸内海巡回診療船「済生丸」による長田地区の診療活動

拠点：真野小学校、夢野台高校

終了期日：平成 7 年 2 月 28 日（活動開始日：平成 7 年 1 月 19 日）

2. 東灘区の診療活動

拠点：灘高校

終了期日：平成 7 年 2 月 24 日（活動開始日：平成 7 年 1 月 24 日）

3. 社会福祉法人^{恩賜}財団 済生会

住所：東京都港区三田 1-4-28

TEL：03-3454-3311

FAX：03-3454-5576

担当 衛生局健康増進課

(078) 322-5257

平成 7 年 3 月 17 日

阪神大震災救援 医療団派遣本部

総括責任者 各 位

社会福祉法人 恩賜財団済生会

理事長 翁 久次郎 様

神戸市 東灘保健所

(東灘区救護所調整本部)

所長 石 井 昌 生

阪神大震災救援医療活動に対する深謝

謹啓

震災後早や 60 日を迎え、当地神戸では、まだ多くの被災者が避難所生活を続けておりますが、医療面においては、地域医療機関もほとんどが診療を再開し、且つ設置救護所のうちで経過的に存続した 12 救護所での医療を、3 月 31 日まで地域医療機関で担当していくという現状でございます。

関係各位には、今般の震災に際して、いち早く駆けつけて救護活動にご尽力いただき、且つ 1 カ月以上の長期にわたりご支援を賜りましたことに対し、心から厚く御礼申し上げます。

関係各位の昼夜を分かたぬ献身的かつ精力的な救援活動のお蔭をもちまして、避難所の市民のいのちと健康を守っていただいたことに、ここに、あらためて、心から、厚く、深謝申し上げる次第でございます。

わたくしどもこれからは、「医療」から「ケア」への移行に伴う長期的な対応を精力的に進めていくことが必要であると認識をいたしております。

避難所も、これからは順次、仮設住宅や二次避難施設、あるいはライフラインの回復に伴って、損傷した自宅での生活に移っていくことと思われれます。

今後、神戸の復興をめざして、わたくしどもも一層の努力を傾注していく覚悟でございます。

関係各位におかれても、わたくしどもを引き続き、あたたかくお見守りくださるとともに、変わらぬご支援をお与えくださいますよう、あわせて、心からお願い申し上げます。

取り敢えず略儀ながら、近況の報告を添えて、医療救援に対しての謝辞とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

敬具

〈神戸市東灘区住吉東町 2 丁目 3 番 28 号 神戸市東灘保健所〉

(☎ 078-841-1333 / Fax 078-811-3769)

平成 7 年 5 月 1 日

各 位

神戸市長田保健所

所長 安藤 博

震災に係る御救援について（お礼）

春暖の候、皆様には御清祥のこととお喜び申し上げます。

この度の阪神・淡路大震災に際しましては、皆様様のひとかたならぬ多大なるご支援・ご助力をいただき、誠にありがたく生涯感謝にたえません。

私どもの保健所管内におきましても、今回の震災による市民への被害は想像を絶するものがあり、また、この震災において発生した多大なる医療需要に対応すべき病院・診療所等医療機関においてもこの震災の被害はその例外ではなく、市民の緊急かつ必要な医療需要に対応しうる状態にはありませんでした。

そのような状況の中、速やかなる御援助、昼夜を問わず多数の避難所や地域を巡る被災市民への医療救護、不足する生活物資等の提供、車両や人力の提供等、様々な御協力をいただき、突然で緊急なる膨大な医療需要に対応することができました。誠に皆様方のおかげで地元医療の空白を埋めることができ、ようやく現在に至ることができた次第でございます。

震災から3カ月が経った今、長田区内の医療機関の概ね8割が開業に至り、地域の医療体制も復旧の兆しを見せはじめています。これまで各避難所を中心に救急救護活動に御活躍いただいた医療チームも順次縮小の方向にむかい、29カ所（2・3月）あった常設救護所も19カ所（4月1日現在）、5カ所（4月10日現在）、1カ所（4月17日現在）というように収束し、4月25日には長田区内のすべての救護所診療が終了しました。今後の地域の医療需要は地域の医療機関が担っていく本来の医療体制が復旧していくものと思われまします。

長田区内の避難所はまだ52カ所が残り、いまだに多くの方々が不自由な暮らしを余儀なくされているところではありますが、今後も訪問指導にあたる各都市の保健婦の皆様方の応援を得ながら復興に向けた努力を続けてまいります。また、この度の経験を今後に活かし、災害に耐えうる住みよい神戸を再建することが私どもに課せられた使命と考えております。今回皆様方から寄せられた暖かい御協力にお礼申し上げるとともに、今後とも皆様方のあたたかい励ましを頂きますようお願い申し上げます。

御 礼

真野地区災害対策本部長

岸 野 賢 治

一月十七日未明、突如として阪神地区を襲った震度七以上といわれる大地震で、阪神地区は未曾有ともいうべき大災害となりました。その中真野地区でも大被害を受けましたが、火災発生を地域企業の自主消防団の力を借りて、一部分のみで消し止めることが出来たことは何よりも幸いでした。

この時にあたり、皆様が遠近各地から暖かい救援の愛の手を差しのべて頂き、救援の物資、炊き出しサービス、送迎での入浴サービス、ボランティア奉仕等々まことに暖かい救援のご温情、まことに有難く終年忘れることなく感謝に堪えません。

これ等数々の皆々様の励ましを今後の立て直しへの糧とし、心をこめて感謝の言葉と致します。

つきましては折角の御訪問に対し、このような取込み中ですので、対応も充分できませんことをおわび申し上げます。

平成 7 年 4 月 28 日

社会福祉法人 恩賜財団 済生会 様

神戸市東灘保健所
所 長 石井昌生

阪神・淡路大震災における救援物資の支援

並びにお見舞いに対する謝辞

謹啓 陽春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびの大震災発生後、早くも 100 日が経過し、被災者の仮設住宅入居も進んでおりますが、未だ避難所には少なからぬ避難者が、毎日不自由な生活をしているという現況でございます。

しかしながら、街の姿がすっかり様変わりした中にも、少しずつ復興に向け活気が戻りつつあるという状況でもあり、全国各地の方々の絶え間のないご支援のお蔭と、常々感謝している次第でございます。

さて、今般、大震災発生に際しましては、早々に心温まるご支援と励ましをいただき、数多くの物資等をお送りいただきましたことに対し心から厚く御礼申し上げる次第でございます。

皆様方のご好意のお蔭をもちまして、関係職員はもとより、避難者すべてが勇気づけられ、被災の中から立ち上がることができた次第でございまして、ここにあらためて、厚く御礼申し上げます。

今後、神戸の復興には、なお相当の日時が必要ではございますが、わたくしどもも復興をめざして、一層の努力を傾注していく覚悟でございます。

関係各位におかれましても、引き続き温かくお見守りくださるとともに、変わらぬご支援ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

ここに、略儀ではございますが、ご支援に対しての謝辞とさせていただきます次第でございます。

本当にありがとうございました。

平成7年5月

社会福祉法人 恩賜財団済生会 御中

神戸市災害対策本部長（神戸市長）

笹 山 幸 俊

義援金御寄託のお礼について

このたびは、兵庫県南部地震に対する救援のため、心温まる義援金を御寄託いただき誠にありがとうございました。

お寄せいただきました義援金は、兵庫県、神戸市をはじめ関係団体で構成しております「兵庫県南部地震災害義援金募集委員会」を通じて被災された方々へお渡しさせていただきますので、御了承の程お願いいたします。

今後は、一日も早い市民生活の安定と神戸の復興に向けて、全力を傾注してまいりる決意でございますので、引き続き御支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

まずは、取り急ぎ書中をもちましてお礼申し上げます。

担当 民生部（民生局厚生部庶務課）

電話（078）322-5193

平成7年7月

恩賜財団済生会理事長 様

神戸市衛生局長 坪井 修平

謹啓 盛夏の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびの阪神・淡路大震災に際しましては、御多忙のおりにもかかわりませず、被災住民の救助、保健・医療活動に格別のご尽力を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

被災当初から長期間にわたり、保健・医療救護班の方々の不眠不休の献身的な活動により、避難所でのインフルエンザの大流行や伝染病の発症もなく、住民も安心して避難生活を送ることができました。市民をはじめ職員も少しは落ち着きを取りもどしてきている現状でございます。

救護活動にかけつけていただいた際には、混乱のなかで十分な受入れ体制もなく大変ご迷惑をおかけいたしました。もっと早くお礼を申しあげるべきところでしたが、依然として2万人余の市民が避難所生活を余儀なくされており、また仮設住宅への入居の進む中、保健活動はまだ始まったばかりといったところでございます。

私共職員一同、皆様の暖かいご支援を糧として、神戸市の復興に向けての一層の精進を決意するところであります。

今後とも当市に対し、尚一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

まずは書中をもってお礼申し上げます。

敬具